

特別支援学校における「複数の種類の障害を併せ有する子ども」の教育に関する今後の課題とは

【研究を行った背景と目的】

平成19（2007）年度から、障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育を実施するための特別支援教育制度がスタートしました。その背景の一つには、障害の「重度・重複化、多様化」への対応が課題となっていたことがあげられます。新たな制度の下で、特に、特別支援学校については、「これまでの盲学校・聾学校・養護学校における特別支援教育の取組をさらに推進しつつ、様々な障害種に対応することのできる体制づくりや、学校間の連携などを一層進めていくことが重要であること。」（「特別支援教育の推進について」（文部科学省初等中等教育局長通知 19文科初第125号、平成19年4月1日）とされました。本研究では、特別支援学校の「重度・重複化、多様化」で括られる教育課題に対応するための基礎的な事項及び「特別支援学校における複数の種類の障害を併せ有する児童生徒」の教育課題を整理するとともに、各教育現場や研究機関等における教育研究の課題を提起することを目的としています。

【研究の内容】

本研究では、アンケート調査及びインタビュー調査を用いて、現行制度上の「複数の種類の障害を併せ有する子ども」に対する枠組において、以下の5つの問いを立て、特別支援学校の実際の教育現場でどのような教育が行われているのかの現状把握を行いました。（本リーフレットでは調査結果の一部を紹介します。）

- 1 どのような子どもがいるのだろうか。
- 2 どのような教育課程を編成しているのだろうか。
- 3 指導上どのような課題があり、どのような工夫をおこなっているのだろうか。
- 4 専門的な知見をどのように取り入れているのだろうか。
- 5 卒業後を見据えてどのような課題があり、どのような工夫をおこなっているのだろうか。

【アンケート調査の結果より】「どのような子どもがいるのだろうか。」

表 特別支援学校小学部4年の在籍者の障害の重なり状況毎の人数（人）（回答数 771校）

小学部 単一障害学級の在籍者																															
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																									
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・聴・病	聴・知・病	聴・肢・病	知・肢・病	知・聴・病	肢・聴・病	視・聴・病	視・聴・知・病			
2552	32	189	1956	85	106	5	6	1	1	13	0	0	96	26	6	0	0	0	7	2	0	3	0	0	7	1	5	3	0	0	
	自閉症との重なり																														
	1	1	1114	0	9	0	0	0	0	4	0	0	7	8	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	LDとの重なり																														
	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ADHDとの重なり																														
	0	3	11	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小学部 重複障害学級の在籍者																															
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																									
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・聴・病	聴・知・病	聴・肢・病	知・肢・病	知・聴・病	肢・聴・病	視・聴・病	視・聴・知・病			
1949	1	2	331	8	0	4	36	5	0	61	22	1	886	241	8	6	0	0	74	10	1	23	3	0	163	3	41	0	0	2	3
	自閉症との重なり																														
	0	2	186	0	0	0	4	0	0	8	0	0	28	90	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	1	
	LDとの重なり																														
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ADHDとの重なり																														
	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

- ・特別支援学校全体では、知的障害を併せ有する児童生徒が多く在籍している。
- ・単一障害学級にも、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒が多く在籍している。
- ・知的障害のある児童生徒では、自閉症を併せ有する児童生徒が多い。

【インタビュー調査の結果より】「指導上どのような課題があり、どのような工夫をおこなっているか。」

インタビュー調査の対象者からは、「複数の種類の障害を併せ有する場合」の指導内容や方法に関する様々な課題が指摘されました。その一方で、これらの課題を克服するための指導上の工夫もいくつか見いだすことができました。以下に、指導上の課題と工夫についての例を紹介します。

- ・特別支援学校（視覚障害）のA校は、視覚障害と自閉的な傾向を併せ有する子どもの指導について、「自閉症教育のストラテジーである視覚的な情報が視覚障害のある子どもにとって意味をもたないため、どのように指導したら良いのか難しい」という指導上の課題を指摘しました。
- ・知的障害、肢体不自由部門設置のG校では、知的障害部門の作業学習（窯業）の授業に、肢体不自由部門の子どもが感触を楽しむなどの目的で参加していました。目標は子どもによって異なりますが、同じ学習活動を共有する工夫がなされていました。・・・・・・・・・・・・・・・・等

【総合考察及び今後の課題】「複数の種類の障害を併せ有する子ども」の教育に関する今後の課題

本研究では、特別支援学校における「複数の種類の障害を併せ有する子ども」の状況を把握し、一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導や支援をおこなうために重視すべき観点について、アンケート調査及びインタビュー調査の結果から以下のように整理しました。（詳細は、研究成果報告書をご覧ください。）

- ・障害のある児童生徒の教育を考える上で「教育的ニーズ」の視点が重要であること。
- ・「重複障害」を単に障害の重なりだけでなく、「教育的ニーズ」の複雑さの視点でとらえること。
- ・今までの障害種別毎の学校で蓄積されてきた教育の専門性を共有すること。
- ・現在の生活と将来の生活がさらに充実するために、個別の教育支援計画の活用が大切であること。

既述のとおり、重複障害を含む様々な障害の状態に対応することができる体制作りが重要であることの趣旨を含めています。この研究で得られた知見や情報を広く教育現場、研究者、行政担当の関係者に還元するとともに、今後の研究所の研究活動の糧としていきたいと考えます。

【研究成果報告書の構成】

本研究の研究成果報告書は、以下のような構成で作成しています。

はじめに

研究の概要

第1章 我が国における「複数の種類の障害を併せ有する子ども」の教育の枠組みと課題

（「重複障害」の概念と教育の枠組み、特別支援学校における重複障害の研究課題、本研究所における研究について、現状における課題と問題提起 他）

第2章 「複数の種類の障害を併せ有する子ども」の教育についての現状把握

第3章 「複数の種類の障害を併せ有する子ども」の教育の枠組みの検討と展望

（障害者の権利に関する条約と目指す方向性、諸外国の定義と教育の特徴 他）

第4章 総合考察及び今後の課題

資料 特別支援学校における複数の種類の障害を併せ有する児童生徒に関する調査結果

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題（研究期間）】

専門研究B「特別支援学校における障害の重複した子ども一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究—現状の把握と課題の検討—」

（平成21年度～平成22年度）

【研究代表者／問い合わせ先】

大崎博史 e-mail: osaki@nise.go.jp

【研究分担者・所内研究協力者】

研究分担者：

笹本 健、松村勘由、齊藤由美子

所内研究協力者：

横尾 俊、西牧謙吾、廣瀬由美子、井上昌士、長沼俊夫、小田侯朗、小林倫代、笹森洋樹、田中良広、中澤恵江